

令和五年度 推薦入学試験問題

国語

◎ 指示があるまで開かないこと

北海道社会事業協会 帯広看護専門学校





## 問題一

近頃、いろいろな商売が個人の楽しみをサポートしようとしている。衣食住が足りて豊かになった現代では、娯楽や教育のフィールドで商品を開発するしかないからだ。趣味を持ちたいと考えているのは、今は若者だけではない。これまで働くことに自分の時間を搾り取られ、ようやく少しだけゆとりができた世代は、若いときに趣味を育てるユウウ<sup>a</sup>がなかった。しかも、この世代が人口に占める割合はかつてよりもずっと高い。仕事をしている間は、ある意味で楽だった。言われたとおりにしていれば間違いはなかったからだ。もちろん、それは自由ではない。「ア」しかし、働いていれば生きていけるし、他人から文句も言われない。働いて金をカセ<sup>b</sup>ぎ、家族サービスをする。こうしていることが普通だった。普通ならば、誰にも A。

あらゆる産業は、そういった画一的な生活をする大衆を相手にしていて、個人的なものでさえ「お膳立て」をして、型にはまったコースを用意する。個々がばらばらで、そのそれぞれに対処していたら商売のコウリツ<sup>c</sup>が悪い。B、「流行」を作り、「ブーム」を演出する。このやり方が、最近では趣味の分野にも押し寄せてきた。マニアックだと認識されていたものが、意外に馬鹿にならない数の愛好者がいることもわかってきたし、そういった少数であっても、商売として拾っていかねばならない時代になったともいえる。

こういった世の中では、情報を求め、それを自分の中に取り込むような成長の過程、いわば面倒な手順を飛び越えて、いきなり楽しい部分を疑似体験できるような環境が用意されている。もちろん「お膳立て」である。「イ」しかし、そんなものばかりが溢<sup>あふ</sup>れている社会に育てば、それが「自分が求めているもの」だと錯覚できるだろう。疑いの中<sup>1</sup>にずつといけば、それはもう現実になる。夢の中では夢だと気づかない道理だ。趣味の入門はその種の「コース」で始めるもの、と考えるだろう。なんでも、まず<sup>1</sup>「〇〇教室」なるところへ入門したり、毎週少しづつ送ってくるキットを組み立てることで、その趣味を楽しめる、と思ってしまう。

これは、けつして悪いことではない。基本的に、非常に親切だ。道のりは綺麗に舗装され、転ぶ危険も少ない。失敗しないように、ホケン<sup>d</sup>がかけられている。ほんのちよつとの苦労で、すぐに一番楽しいところが極められる<sup>ア</sup>という気持ちに誰でもなれる。それが「売り」なのだ。

当然ながら、これは「錯覚」である。そう錯覚させるのが商売なのだから、引つかかっているといえれば引つかかっている。C、楽しめれば良いのでは？ そう、そのとおりだ。しかし、あくまでも、バーチャルなのだという自覚を持つ方が良い。ゲームと同じである。

自動車が大好きでレースをよく観に行くマニアがいたとしよう。かつてならば、車の本を読む、モケイ<sup>e</sup>を作る、自分の車を走らせる、それを改造してみる、友達と一緒にチームを作ってレースに出る、というようなステップがあった。そういう楽しみ方があった。「ウ」その道を歩むためには、情報を集め、自分で吟味し、実際に試し、失敗も重ね、あるいは危険な体験もする。そうするうちに、だんだんと自分が変化することを楽しむ。それが趣味の王道だった。

これに対して、ゲームでカーレースをすれば、バーチャルではあるけれど、かなりリアルな体験ができ、D一番楽しい(と想像できる)ところがいきなり味わる。用意されたシステムの中に、自分をインプットするだけで良い。ゲームの中での技術的なことが身につくとき、ゲームにおける情報を手に入れ、ゲーム上の経験値がアップする。しかし、現実の自分にはなにも変化がない。そのゲームに飽きたとき、「この体験は何だったのだろうか？」と感じれば、僅か<sup>オ</sup>に成長があるかもしれないが。

<sup>2</sup>バーチャルの中にある「自分」は、そのシステムが見せてくれる「幻想」である。これは、素晴らしいことだと僕は思う。実は、実社会における他者が認識する(と想像できる)「自分」も、明らかに幻想だから、ほとんど同じものだって良いだろう。

ようするに、舞台上演じるものであり、その舞台さえ誰かに用意してもらえば、自分の希望に近い「自分」にわりと手軽に近づける。その舞台上で陶醉<sup>イ</sup>しているうちは、とても気持ちが良い。これは「夢」だといっても、夢を見続けることができるならば、それはそれで素晴らしい「体験」といえるだろう。

ただ、である。夢を見続けるには、また特殊な才能が必要である。【エ】普通の人には、必ずその夢から覚めるときが来る。バーチャルのシステムから、現実の世界へ戻ってくるときがある。たぶん、それは肉体の存在に起因しているだろう。普通の感覚の人ならば、必ず「現実」を感じる時がある。現在のところ、まだバーチャルの技術は、現実と等しいリアリティを実現していない。また、生まれたときからバーチャルの中でずっと生活している人はまだいない。ゲームの中と外の区別がつかないようなジタイ<sup>f</sup>になれば、こんな覚醒<sup>かませい</sup>もなくなるだろうが、今は、まだそうはなっていない。

こうして現実<sup>じつじ</sup>に立ち返ったとき、「自分を見失う」感覚に囚<sup>とら</sup>われるだろう。それは、そのI<sup>I</sup>のために消費<sup>①</sup>された自分の時間に対して、自分がどう変化したのか、どれだけ成長したのか、という実感の希薄<sup>う</sup>さがもたらすものだ。人生というものは、時間が限られている。生きている時間は、そんなに長大ではない。誰でも知っていることである。人生70年ならば、月にすれば840カ月、日にすれば、僅か2万5000日である。寝ていても、気を失っていても時間は過ぎる。既<sup>エ</sup>に、もう何分の一かは終わっている。残りはどれだけだろう。そもそも、いつ死ぬかもわからない。そういう「残り時間」を意識したとき、自分はどれだけの人間になれるのか、どこへ到達できるのか、何をなしえるのか、どんな楽しみを味わうことができるだろうか、と考える。そして、そのほんやりとした、まだ見ぬ「楽しさ」はどれくらいだろうか。その期待値を高めるために、自分は何をすべきか。はたして今、その楽しみに向かって自分は進んでいるのだろうか。

(森博嗣『自分探しと楽しさについて』 一部改変)

設問一 傍線アからエの漢字を平仮名(ひらがな)に書き換えなさい。

設問二 傍線aからfの片仮名(カタカナ)を漢字に書き換えなさい。

設問三 A<sup>A</sup>には、「悪く言われることはない」という意味になる慣用句を使った表現が入る。次の中から

最も適当と思われるものを選び、記号で答えなさい。

- ア お茶を濁されない
- イ 寝首をかかれぬ
- ウ 後ろ指をさされない
- エ 取り付く鳥がない

設問四 B<sup>B</sup>とD<sup>D</sup>には、どんな接続詞(つなぎことば)が入るか。次の中から最も適当と思われる語

を選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ語は二度以上使わないこと。

- ア しかも イ でも ウ なぜなら エ だから

設問五 傍線①「消費」の対義(反対の意味を表す)となる二字の熟語を書きなさい。

設問六 傍線(1)「まず」○○教室<sup>①</sup>なるところへ入門したり……キットを組み立てることで、その趣味を楽しめる、と思ってしまうのはなぜか。本文中の語句を用いて六十字以内で説明しなさい。

設問七 傍線(2)「バーチャルの中」にある『自分』は、……『幻想』である」という根拠は何か。本文中の語句を

用いて二十字以内で説明しなさい。

設問八

I

には、どんな語句が入るか。次の中から最も適当と思われる語句を選び、記号で答えなさい。

ア 特別な時間    イ 精神的負担    ウ 経済活動    エ 仮想の体験

設問九

本文の内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 現代では、個人の楽しみをサポートする商品が増え、画一的な生活をする大衆に対して、個々にさまざまな体験をすることを推奨している。

イ 新しい趣味の形として、バーチャルな空間の中で用意されたシステムを疑似体験しながら、理想の自分に近づこうとする人が増えている。

ウ 情報を集め、それを取り込んで自らの変化や成長の手ごたえを感じることに自分の時間を費やすのが、かつての趣味の王道であった。

エ 型にはまった趣味のコースは、手軽に楽しむことができるが、普通感覚の人はすぐに飽きて自分の時間を無駄遣いしたと思いがちである。

設問十

次の一文はこの文章のどこに入るか。【ア】～【エ】のうち最も適当な箇所を選び、記号で答えなさい。

「 商売として、誰かが用意したものだ。」



問題一

テレビ番組の制作は、一種のプレゼンテーションです。

取材で得た情報をいかに伝えるのか。最大限の効果を引き出すにはどう演出すればいいのか。ディレクターはいつも **A** しています。

そもそも、人に何かを伝えるという行為の目的は何でしょうか。伝えておしまい、ではありません。その目的は、相手を動かすことです。相手の心を動かして、その行動を変えることです。私の場合は、自分の番組を通じて、社会課題を解決することを目指していますが、常に「このプレゼンがうまく伝われば、社会は変わるはずだ」と考えながら番組制作を続けています。

日本には優れた研究者がたくさんいます。もし、その研究がいわゆる基礎研究として、限られたコミュニティの中で進められるものだとしたら、研究者は専門用語を駆使して、読み手が膨大な数の論文を参照できるという前提の下に、論文をシッピツしたり、発表したりすればいいと思います。それによって正確性や正統性が担保され、存在価値が生まれるからです。

**B**、もし社会を変える種になる可能性を秘めている研究だとしたら、研究者仲間には通じない伝え方ではもったいないです。京都大学 iPS 細胞研究所の山中伸弥所長のように、自分たちの研究とその有用性をわかりやすく説明できる人はとても貴重ですし、ミリオク的だと思います。一般の皆さんにもダイレクトに伝わりますし、私たちマスコミもその研究内容をさらに広く伝えたいと考えます。

なぜ、研究者の話を引き合いに出したかという点、ビッグデータや AI を駆使した新たなテクノロジーで進んでいる作業は、現状ほとんど研究と同じだからです。使っている手法も科学的・数理的ですし、専門用語を理解していないと、その仕事を完全には説明できません。取材対象となる人には研究者や専門家が数多く、私もうまく話を聞き出せるように自分なりに勉強を続けています。

しかし、いざ取材をするときには、私はあえてジャーナリストの視点を持ち込みます。**C**、研究者の言葉を使った方が、やりとりが楽になるシチュエーションもたくさんあります。ですが、それでは高度に専門的な内容の言葉がやりとりされるだけで、「化学反応」は起こりません。

ある企業や組織が所有するビッグデータを使って番組をつくりたいと考えたとします。まずは「データを提供してください」と相手とコミュニケーションしなければいけません。相手はみな専門家です。自動車の運行記録を持つ会社の人であれば、自動車業界の専門家。医療関係のデータであれば、医師が多い。彼らが、自分のデータについて日常的に意見を交換する相手のほとんどが、同じ業界の人です。そしてそのままでは、自動車のデータは自動車業界の中でのみ、医療データは医療の世界でのみ利用されていくだけです。

私は、相手のフィールドの専門知識を踏まえた上で、ジャーナリスト的な視点から話をします。**D**、具体的かつチャレンジングなアプローチと目標——例えば、「そのデータを活用して、人的災害の減少を実現したい」——を提示すると、私が門外漢であっても喜んで話を聞いてくれます。「データの **I** 者を待ち望んでいた」とおっしゃる方さえいました。

**II**。これが、自分の考えを伝えることの第一歩なのではないかと思います。  
データをシユビよく入手できて、専門家への取材がうまくできたとしても、もちろんそれで番組ができるわけではありません。高度で学術的な情報を、翻訳する作業が必要なケースもあります。難しいことをどうわかりやすくするか、考えなくてはなりません。

テレビの報道では、新聞よりもずっと簡単な表現を使います。テレビは新聞のように読み返せないからです。テレビは次から次へと場面の変わる、そして後戻りのできない、紙芝居だとも言えるでしょう。一瞬でもつまずいたら、



そこで視聴者の興味が途切れてしまいます。

テレビの現場では一般的に、難解な漢字や熟語をむやみに使わないようにすることが、習慣になっています。例えば、「○○がジヨウシヨウする」ではなく、「○○が上がる」という表現にすることで、小学生でも理解しやすくなります。一方で、やみくもにやさしくするだけでは、歯ごたえのある内容を求める視聴者に飽きられてしまう可能性も考えられます。E、私が番組の構成案をつくるときには、専門的で難易度の高いバージョンから、誰でも理解できるように平たい内容にした簡易バージョンまで想定・準備します。

(阿部博史『データでいのちを描く』 一部改変)

設問一 傍線アからエの漢字を平仮名(ひらがな)に書き換えなさい。

設問二 傍線aからfの片仮名(カタカナ)を漢字に書き換えなさい。

設問三 Aに入る四字熟語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 一進一退 イ 抱腹絶倒 ウ 温故知新 エ 四苦八苦

設問四

B Eには、どんな接続詞(つなぎことば)が入るか。次の中から最も適当と思われる語を選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ語は二度以上使わないこと。

ア そのため イ そして ウ しかし エ もちろん

設問五

傍線①「門外漢」とはどのような意味か。次の中から最も適当と思われるものを選び、記号で答えなさい。

ア 近寄りたがたい雰囲気を持つ者。

イ 話すことが不得手な者。

ウ 身元のはっきりしない者。

エ 専門的な知識のない者。

設問六

傍線(1)「テレビ番組の制作は、一種のプレゼンテーション」とはどういうことか。次の中から最も適当と思われるものを選び、記号で答えなさい。

ア テレビ番組を制作するために、研究者や企業や組織からデータを提供してもらえるように、アプローチを工夫して必要性を訴えるということ。

イ テレビ番組を制作することは、視聴者に情報を伝えるための工夫をして、社会を変えるような行動を促す意味を持つということ。

ウ テレビ番組を制作することによって、社会を変える研究やデータがあることを、誰でも理解できるように広く伝えるということ。

エ テレビ番組を制作するにあたり、取材対象となる人からうまく話を聞き出すため、たくさん勉強や下準備を必要とするということ。

設問七

傍線(2)「私は、相手のフィールドの専門知識を踏まえた上で、ジャーナリスト的な視点から話をします」とあるが、それはなぜか。本文中の語句を用いて四十五字以内で説明しなさい。

設問八

Iには、どんな語句が入るか。最も適当と思われるものを本文中から漢字二字で書き抜きなさい。

設問九

IIには、どんな語句が入るか。次の中から最も適当と思われるものを選び、記号で答えなさい。

ア 相手の言語を勉強した上で、自らの言語で話す

イ 相手に寄り添う努力を惜しまない

ウ 難解な表現を避けて、誰にでもわかるような言葉で伝える

エ 相手のフィールドに乗り込んで、対等な立場で議論する





